

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290200078		
法人名	医療法人社団有相会		
事業所名	グループホームかしわい 1階 (ツバメ)		
所在地	千葉県千葉市花見川区柏井町1132-1		
自己評価作成日	平成22年3月13日	評価結果市町村受理日	平成22年5月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成22年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い敷地の中で、ゆっくり散歩を楽しむことや、施設の周りの、花や木々の移り変わりから、肌で季節を感じる事で楽しく穏やかな生活を送る事が出来ると思います。また、閑静な中にも、人の行き交う姿や車の往来などを見ることで地域で生活しているという活力が得られると思います。看護師が常勤で勤務している事で、健康管理、体調管理がされ、また、同法人内に病院が併設されている事で体調を崩された時でも迅速に対応が出来ます。また、敷地内に系列施設の託児室があり、子供さんと触れ合う機会や、高等学校が近くにあり、学校行事に参加させていただき、交流も深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町会長・老人会会長・民生委員など、地域の人達が非常に協力的で、良い関係ができています。母体法人の病院からベテラン看護師長が管理者として赴任し、医療面でのサポート体制はもてるん、少しの体調変化においても素早い対応やアドバイスが受けられ、入居者だけでなく家族や介護職員の大きな安心感へとつながっている。理念を実現するために全職員で取り組もうとする意気込みが感じられるホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価(1階ツバメユニット)および外部評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入所者様への対応の仕方、支援の仕方、家族との連携を図る際、常に理念に立ち返り「入所者様が、穏やかな笑顔で、いられるよう」ケアの有り方を検討しています。	穏やかな笑顔でいられる、一人ひとりに合った支援、地域での生活支援、家族との交流などを理念とし、職員が常に意識できるようホーム内に貼ってある。ミーティングなどでも話題にし、理念に基づく支援となるよう心がけている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入所者様への対応の仕方、支援の仕方、家族との連携を図る際、常に理念に立ち返り「入所者様が、穏やかな笑顔で、いられるよう」ケアの有り方を検討しています。	町会長・老人会会長・民生委員が非常に協力的で、行事に誘ったり誘われたりの関係ができています。近隣の中学・高校の体験学習や看護学生の実習の場としても提供しており、高校の文化祭や体育祭に出かけたり、ボランティアを受け入れたりもしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設当初より隣近所への挨拶や、併設の施設との夏祭りへの、お誘いをしています。また、ご近所の方より、家庭菜園で、収穫された野菜等を、お裾分けして頂いたりお付き合いをさせて頂いています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に一度の、推進会議を開き、安心ケアセンターの方々に、ご指導いただき、地域の方々との連携を通じて、地域の福祉活動と共に、サービスの向上に努めていきたいと思えます。	3ヶ月に1度の開催が定着し、毎回安心ケアセンター職員・町会長をはじめとする近隣住民・家族・法人関係者などが参加している。しかし、現状報告が中心で、活発な意見交換の場となっているとまでは言いがたい。	入居者のホームでの暮らしぶりを知ってもらうために、写真などを提示したりテーマを決めるなど、参加メンバーからの質問や意見を言いやすくするための工夫をして、サービス向上につなげる取り組みが期待される。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険に関して相談窓口に出向いて、相談に乗ってもらうこと度々です	運営推進会議への行政の参加は得られているが、それ以外ではあまり関わりが持っていない。市主催の研修会には参加申し込みをしているが、選にもれることも多いので、近隣のグループホームと情報交換するなど情報を集める工夫をしている。	運営推進会議以外でも、普段から近況報告をしたり、介護相談員を受け入れるなど、様々な機会を通じて行政と関わりを持つことが望まれる。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修に参加したり、勉強会を実施し指針に基づいて日常的なケアが身体拘束に当たらないか検討しています。	マニュアルを整え、法人内での研修に参加している。更に、全職員が普段から意識し、職員同士でチェックし合うなどしている。入居者は1階と2階を自由に行き来し、行動を制限しないケアを実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止の研修に参加した職員を中心に話し合いを持ち、身体拘束がもたらす多くの弊害、身体拘束廃止に向けたたすべきこと等をお互いに確認しあいました。		

グループホームかしわい 自己評価(1階ツバメ)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームにも成年後見人制度を昨年利用された方がおり、御家族と共に取り組みました。制度に関しての理解を深めるようにしています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に充分なる説明、理解を頂いております。また、リスクや重度化、見取りについては指針に基づいて説明し理解を得るように勤めております。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に入所者に声掛けをして、不満、苦情を早くに気づき対応に勤めています。入所時に不満、苦情の窓口の説明をし、推進会議などでの意見をいただけるように働きかけています。	家族には毎月のホーム便りに加え、一人ひとりの日常の様子を知らせている。職員ミーティングに参加する入居者もあり、いろいろな機会から出された意見を運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を開き運営に関する要望、意見を聞く機会を設け、反映させたいと思っています。	「思いついたことは言ってみる」という管理者の考えのもと、職員は普段から気づいたことをどんどん言える関係である。食後の歯磨きで他人の歯ブラシを使うことを防ぐため、改善策を出し合った結果、間違いが無くなった。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	興味のある事や、学びたい事等把握し資格取得について勉強会の機会や試験日等の調整をしている。各自が頑張っている様子を声掛けしたり、向上心を持って働けるよう応援したりしています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員からの希望を取り入れ計画的に研修を受ける機会を持ち、法人、及びホーム内での、勉強会も推進しております。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市のグループホーム研修会に参加し、グループホーム同士の交流を持ち、サービスの向上に役立てています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>常に入所者に声掛けをして、不満、苦情を早くに気づき対応に動めています。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>月に一度入所者さんの状況報告をして、面会時などに、御家族の要望を引き出し、苦情対応、状況説明に対応しています。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者の個性を大切に考え、特徴を捉え、本人の困っていることや、不安に感じていることなど、時間をかけて、傾聴し、心情を探りながら聞く機会を多く持つようにしています。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者に寄り添い沢山話を聞き、感謝したり、いいところをほめてあげたりの会話が多数。特に調理や、掃除の仕方、趣味のものは、すばらしいものがあります。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族との関係は、認知の症状や、問題等を共有し、外出外泊時も協力しあい、お互いの思いを言ったり、聴いたり日常の支援をご家族とともに作っていかれるように配慮しています。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>少しずつ忘れることが多くなり、ご家族の話や、お孫さんの話などを盛り込み会話を楽しんでいます。面会にこられたときなど、おもてなしをして関係作りの、お手伝いを支援しています。</p>	<p>個人的な外出支援などは難しい状況だが、年賀状や絵手紙を家族に送ったり、入居前からの趣味だった手芸や園芸などが継続できるよう努めている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>職員は利用者の趣味や、嗜好を把握し、会話を盛り込んだり、一緒に散歩に出かけたり、潤滑油の役割が出来るように動めています。</p>		

グループホームかしわい 自己評価(1階ツバメ)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院になられた方が、退院されたら戻りたいという本人ご家族の希望に添えるように相談に乗ったり、話し合いの場を設けています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや希望を大切に、受け止めて、安心できる家庭的な環境に勤めています。ご家族からの情報も得るようにしています。	ホームでは入居者の1つ1つの行動には理由があると考え、要望を汲み取るきっかけとしている。家族からも趣味や得意なことの情報を得ている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけこれまでの生活環境に近い暮らしづくりが出来るよう支援しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	有する能力において支援しています。利用者の小さな動作や心理面を見逃さないように情報を共有しています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望、ご家族の思いを伺い、施設の運営会議で話し合い、ケアプランを作成しています。	本人の思いや家族の意向を反映させた介護計画を、全職員で話し合い作成している。尚、見直しは3ヶ月に1度行っているが介護計画に沿ったサービスの評価が不十分と思われる。	入居者一人ひとりの介護計画に対するモニタリングをしっかりと行って、次の計画に繋げるよう期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに食事、排泄、保清、身体状況等を記載し、又、その日の様子を記録しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に応じて通院等のご家族と連絡を取り、協力して行っています。入院時も、洗濯物の入れ替えや面会に行くなどして、不穏にならないように支援しています。		

グループホームかしわい 自己評価(1階ツバメ)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議を通じて、各機関と連携がとれご指導いただきながら支援しています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と相談の上、同法人内の、病院、クリニックへの受診を支援しています。	入居者の多くは母体である法人病院からの入居がほとんどであり、引き続きかかりつけ医となっている。また、月1回の往診で健康管理を行っている。専門医を受診している入居者は家族の協力を得て支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師資格を有しており、体調管理や医療面での相談、健康管理を行っています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師やご家族との相談のもと早期退院に向けて対応しています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の協力のもと、ご希望であればターミナルの件も含めて契約時に話しています。その様な状態が発生した場合、協力病院や主治医と相談し今後の考えられる状態を話し合いお互い合意の上で、ケアプランに記載しすすめる体制はできています。	入居時には看取りについての説明をし、希望があれば行う体制はできている。過去には看取りを行った実績もあり、その時は入居者にも当人を労わる姿が見られるなど全員で見送った。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職すると緊急時の対応について研修を受け各自が対応できるよう勉強会を開いています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内で消防署の方たちの指導を受け防災訓練を実施し避難場所等について話し合いの機会を設けています。	緊急通報装置やスプリンクラーの設置はすでにできている。年2回の防災訓練や夜間想定訓練も行った。周りにある同法人の3施設分の非常用の備蓄もしている。しかし、全員参加の訓練や近隣の協力体制についての話し合いまでには至っていない。	もう一度マニュアルの整備をし、いざという時に慌てず行動ができるような訓練が必要と思われる。また、同法人の応援体制や近隣への協力体制など運営推進会議でも議題にし参加者と話し合うことが求められる。

グループホームかしわい 自己評価(1階ツバメ)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについての意識向上を図り、日常のかかわりの中でも常に意識しながら支援しています。	職員は日常のケアで入居者への言葉かけに注意し、一人ひとりを尊重した対応をしている。トイレ誘導では他の入居者に気付かれないうち支援している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の理解力やコミュニケーションの能力に合わせた話かけを行い解かって貰える様に支援し常に主体性を尊重し、自己決定又は、決めてもらえるような働きかけを心がけています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大勢で歌うときやレクのときも表情や状態などに気配りをし、外出、買い物等の希望があるときはすぐに出来なくても約束をして対応する様にしています		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え等ご自分で出来るように支援しているが、介助が必要な方やご自分で決めにくい方には、本人の意向に沿うような支援をしています。希望の理美容店に行き、カットされたりしています。希望により、髪を染めてあげることもあります		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付け等は一緒に楽しみ、種播きから世話をした野菜を食卓にだし、一緒に食べたりしています。	商店が遠く買い物に不便であるため、毎日の献立は食材会社からの取り寄せで調理を行っている。入居者はもやしの根とりなどできることをやっている。時には皆でホットプレートでどら焼きを作ったり、近くのラーメン屋に出かけるなど外食も楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の把握をし、食事の形態等の工夫をしています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を話し合い毎食後のはみがき、声かけて習慣づけるようにしています。歯磨きが、ご自分で出来ない方には、支援しています。		

グループホームかしわい 自己評価(1階ツバメ)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や習慣を把握しトイレ誘導を行ってトイレでの排泄を促すように配慮しています。排泄チェック表を使用し排泄パターンの把握に努めています。	入居者一人ひとりに合わせたトイレ誘導を行っている。日中は紙パンツの入居者が本人の希望で夜間オムツにしたこともあるが、できるだけ自立にむけた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便について記録し、水分摂取に注意し日中はさんぼ、レク等取り入れ体を動かすようにしています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介助が必要な方には安全面に気を配りその人に合わせた介助方法をくふうしている。介助場面が多いので夜間の入浴は行っていません。	一人ひとりの入居者には最低週3回の入浴の支援を行っている。曜日によって男性、女性の入浴に分けているが、毎日の入浴を希望する方には対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テレビのラジオ体操を活用し、手足の運動や、体を動かすことにより、穏やかな睡眠を促したり、一人一人の体調面を考慮して休息が必要な人には午睡を取り入れたりしています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに薬の内容・副作用等ファイルされ全職員が理解するようにし、薬に対する状態の変化等についてすぐに管理者に報告する体制を取っています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や盛り付け、洗濯物を畳んだり、各自が得意なものを発揮してもらうように働きかけています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を、毎日の日課として、外出の機会を増やし肌で季節感を感じてもらえるように工夫しています。また、地域の飲食店に出かけて、食事をするもあります。	隣の同法人の職員の協力などを得て、毎日の散歩ではほとんどの入居者の外出ができています。歩行が不安定な入居者は自分で車椅子を押して歩くなど、できる限り自立歩行を支援している。	

グループホームかしわい 自己評価(1階ツバメ)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金の管理が出来る人には買い物の時に付き添い地域での社会性を継続してもらうように、支援しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や、絵手紙を送ったりできるように、支援しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルや椅子は、シンプルなものを配置して家庭的な雰囲気になるように工夫しています。	南向きの明るいリビングは広く、温度や湿度管理がきちんとされ居心地良く過ごせる場所になっている。ダイニングテーブルの椅子は前脚にキャスターが内蔵され、椅子をテーブルに近づけたいときなどに便利なものを使用している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった人とおしゃべりをしたり、趣味の事をしたり、皆で歌を歌ったり、また、お茶を飲んだりして、楽しみのある環境作りを工夫しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みの制限はしておらず、馴染みの物、写真などを飾り、居心地良く過ごせるようにしています。	各居室には収納力の高いクローゼットが作りつけになっており、入居者の馴染みの家具などはあまり見当たらない。また、ホームで用意したベッドや床頭台が置かれており、一見病室と錯覚するような感じも伺える。	現在置かれている床頭台を上手く利用し、そこに写真や馴染みのものを飾るなど、入居者が今まで暮らしてきた部屋に近づけるような工夫が望まれる。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりをつけ安全面に配慮しています。歩行困難な方には、車椅子を用意し、活動的に生活できるよう工夫しています。		